

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號二第 卷二十三第

行發日一月二年六和昭

論叢

不動產貸營業の地方間課税 法學博士 神戸 正雄
幕末に於ける幕府產物會所設立計畫について 經濟學博士 本庄榮治郎

時論

新地租方案を論ず 經濟學博士 沙見 三郎
率勢米價に就いて 經濟學士 蜷川 虎三

說苑

獨逸中工業金融機關との Industrieschaft 經濟學士 楠見 一正
米の銘柄別短期清算取引を評す 經濟學士 今西庄次郎

雜錄

消費組合による米の配給 經濟學士 谷口 吉彦
段別割の存在理由 經濟學士 安田 元七
支那經濟の衰退とその復興問題 經濟學士 大上 末廣
近江日野町志を讀みて 經濟學士 菅野和太郎

附錄

新着外國經濟雜誌主要論題
本誌第二十一卷乃至第三十卷論題索引

(禁轉載)

支那經濟の衰退と復興の問題

大 上 末 廣

序 言

支那に近代的産業組織が、始めてその姿を現はしたのは、道光二十二年の南京條約以後である。その後、きはめて怪しげな足取ではあつたが、ともあれ支那の資本主義は、漸次發達の過程を辿つたのであつた。而して民國五年を一轉期として、この資本主義經濟はやゝ見るべき進歩をなしたのであつたが、その發達普及の程度は、勿論諸他の先進國の比ではない。それは只

萌芽の状態に在る、と言ひうるに過ぎぬであらう。かくの如く謂はゞ幼年期に彷徨する支那の資本主義は、然るに、一方に於ては國內の政治的混亂のために、他方に在つては世界的規模の經濟恐慌のために、いま激しい苦難をなめつゝある。工商部上海商品檢驗局の出版にかゝる『國際貿易導報』が、同誌の第一卷第四號（民國十九年七月）を『金貴銀賤與國際貿易問題』となし、また上海特別市商人團體整理委員會が、その機關誌『商業月報』第十卷第六號（民國十九年六月）を、『失業問題專號』となしたる如きは、幼き支那資本主義のあけた小さい然し乍ら痛ましい嘆きの直接的表現であらう。

拙稿は『新生命』第三卷第十號（民國十九年十月）に掲載せられた陶希聖氏の『中國經濟衰落與復興問題』の紹介である。いま僅かに發展の緒についた支那の資本主義は、上述の如き一つの障礙に當面しつゝあるが、此の問題に關する様々の議論が、支那の經濟學界に生まれてゐる。私の見聞は、極めて淺狹ではあるが、然し支那經濟の現状に關する幾多の批判的記述のうち、氏の

該稿は、最も出色ある文字であると信ずる。譯稿の動機はこゝに在る。然し乍ら、學說の紹介は、勿論その學說の全服的承認を意味しない。氏の此の論稿中には事實に關する數個の誤認が含まれてをり、またその理論も幾多の點に於て、獨斷と過誤に陥つてゐる。例へば、所謂『反帝國主義』運動に關する氏の意見の如きは私の全然承服し得ない所である。『反帝國主義』運動は、支那經濟の發展には、何らの寄與をなし得ないと私は見る。然しいまは此らの點には一切ふれない。拙稿の任務は只その譯出紹介にのみある。

—

工業製造品の最も重要な消費市場が衰退すれば、工業もそれに隨つて衰微する。支那は、昨年（民國十八年。以下同じ）には生産が衰退したにも拘はらず、國際貿易は却つて増進したのである。然るに、今年（民國十九年。以下同じ）に到つては、生産は引きつゝいて衰微し、農民及びその他の小生産者の購買力は、更に低下した。従つて、外國工業品の支那輸入は、一變して減

少するに至つた。

試みに昨年と今年との、日・英・米・獨・四ヶ國の對支那輸出を比較すれば、次の如くである。¹⁾

	一九二九年	一九三〇年	減少率
英國	一〇、七〇三	六、九六四(千磅)	三三・五%
獨乙	一〇一、〇八三	七五、一七〇(千馬克)	二五・六%
米國	七八、四三一	五八、五六五(千弗)	二五・三%
日本	二六四、七〇〇	二〇七、五六五(千圓)	二一・六%

農民及びその他の小生産者に於ける生産減少に基く購買力の減退が、既に外國商品の輸入に影響を及ぼしたとすれば、その影響は當然にまた内國商業の上にも現はるゝ。英國が揚子江上に走らせてゐる船數の減少せる如き²⁾、日本の輸入貨物が、何れも輸入港に堆積してゐる如きは、凡て内國商業の衰微を表示する現象である。³⁾

右に述べた外國貨物の輸入減少及び停滯は、當然金價の昂騰銀價の低落の結果である。然し、銀價は何故に低落したか。支那の現銀は、内地に消費さるゝことが出来ず、従つて上海及び廣州等の國際都市に集中し、且

つ不斷に海外に輸出せらるゝ趨勢に在るが、かくの如き趨勢は、世界の銀市價をして更に低落せしむる條件となる。而して、支那の内地が銀を消費することの出来ない基本的原因は、生産の衰退に在る。例へば、浙江省の如きは、往年新繭の産出時期には、上海から約一千萬元の現銀を吸収したのであるが、然し今年の五月八日現在に於ては、只僅かに五百萬元を搬入したるに過ぎぬ。かく上海から運び出さるゝ現銀が、ただ浙江省の繭のみに就て見ても、既に五百萬元も減少してゐるのである。⁴⁾ かくては現銀の都市に集中せざらん事を望むも、それは不可能事である。世界に於ける最大の用銀國が、既にその銀を用ふるに場所のない現狀に在つて、世界の銀市價の昂騰を求むるは、また徒らなる念願たるに過ぎぬ。

商業衰退の現象は、昨年には未だ現はれなかつた。然し、工業の衰退は、昨年から引き續いた趨勢である。いま數個の工業を瞥見するであらう。先づ棉業をみる。今年上半年の棉織業には、やゝ進歩の跡が伺はるゝ。

1) 九月六日、上海日日新聞
 2) 六月五日、時事新報(上海)參看
 3) 六月三日、時事新報(上海)參看
 4) 六月六日、大陸報社説

現に運轉中の紡錘數に就て言へば、昨年の下半期に比して増加してゐる。數字を示せば次の如くである。⁵⁾

紡錘數	本年上半年	昨年下半年
運轉數	三、八二七、九〇〇	三、六九九、四〇二
建設中	二〇〇、九五〇	一八〇、九四〇

運轉中並に建設中の紡錘數は、約計四百萬枚に達する。運轉中の紡錘數は、昨年末に比して十二萬八千餘枚の増加である。然し、吾々はこれによつて樂觀すべきであるか。答は「否、不然」である。第一に、紡績工場使用の原棉には、外國棉が増加して、支那棉は減少してゐる。いま昨年の下半年と今年の上半年との原棉消費量を對比すると次の如くである。(單位五百磅大包)

原棉消費	本年上半年	昨年上半年
支那棉	七七〇、七八五	七六二、〇一七
米國棉	一六一、五二〇	一二九、六四七
印度棉	二六四、三一八	一九八、七四六
埃及棉	一、五八四	八六一
其他	五、一六六	一、二五一
合計	一、二〇三、二七三	一、〇九二、五二二

かくの如き外棉増加の現象は、何故に起つたか。『支

支那經濟の衰退とその復興問題

那に於ける近年の棉產量は、約五六百萬擔であるが、これでは紡績工場の需要は、到底充されない。且つその品質は粗短であつて、精紡には適しない。豫州の靈實は、纖維や、細長く、三十二番手以上の棉糸には混紡しうるが、然しその量は極めて少く、且つ退化の傾向さへ見らるゝ。それ故に細絲を紡ぐには、米埃等の原棉を用ひねばならぬ。外國棉の輸入は乃ち大となる試みに「海關貿易」を見よ、原棉の入超は、近年一億海關兩の巨額に達する⁶⁾。棉織業はかくの如き條件の下に發達してゐるのではあるが、然しかくは「以農立國」の中國に、如何なる好結果を齎らし得るか。第二に、上述の増加錘數のうちには、日本商は百分の三十九を占めてをり、英商は百分の四強を占めてゐる。従つて棉織業の發達は、ただ外國資本のより多き收利に外ならぬ。之に反して、支那資本は反つて危殆の情勢に在る。危殆の原因としては一に租税の重課、二に金融の困難をあけうる。棉織業同業公會は、政府に之が救済を請ふたのであるが、政府には今尚ほ何らの辦法もない。⁷⁾

5) 調查會聯合日、申報參看
 6) 華商紗廠聯合日、申報參看
 7) 華商紗廠聯合日、申報參看

次に生絲及絹布業に就て見よう。生絲は、その輸出額に於ても國內の消費量に於ても、共に減少してゐる『往年新絲の上市後には、歐米の各商は競つて之を購入した。従つて、各月期を分つて必ず生絲市面は賑つた。今年は然らずして氣息奄々として一落不振の状態である』⁸⁾。その原因の第一は、英佛等の絹織物の停滯であつて、民家は人絹を買ふて生絲を用ひない。第二因は、日本絲が最低價格を以つて、支那絲と競争してゐる點にある。⁹⁾ 國內消費の生絲に至つては、年と共に減退してゐる。浙江絲と人造絲とを比較するに、前者の消費量は漸減して、後者は漸増してゐる。最近三ヶ年の兩者の消費量は左の如くである。¹⁰⁾

	人造絲	天然絲
第一年	五五〇擔	三、三〇〇擔
第二年	七五九	七九〇
第三年	九五四	七二〇

絹布業の衰退には、更に驚くべきものがある。浙江省に就て言へば、杭州、嘉興、湖州、紹興の四地に於ける絹布工場にして閉塞せるものは、最近二ヶ年に九

十餘家を算し、その停機の合計は、約五千數百架に上つてゐる。絹布の生産量を以つて論ずれば、今年と十七年との差は十對四の比であり、十八年との差は十對三である。職人の失業せるものは、三萬七千人に近い。

マッチ業は、瑞典マッチ・トラストの雄厚なる資本の壓迫下に在つて、諸種の組織を作つて之が對抗に努力しつゝある。然し瑞典資本家は、東三省の市場を獨占し、また上海のマッチ製造業を併合せんとする氣勢を示してゐる。¹¹⁾

煙草業は、金高銀安及び稅則の壓迫をうけてゐる。六月末迄に陸續と停業せる者の數は、大小十餘家を下らない。¹²⁾ 製糖業の衰微は更に甚だしい。金の昂騰銀の低落のために、外國商品の輸入が日々に減少しつゝ、ある今日、外國糖の輸入のみ獨り盛である。上海に於ける砂糖貿易數は、毎月約十二三萬包前後である。六、七月の中には、六十三萬包の輸入をみた。¹³⁾

農業並に農村の副業も亦、昨年に引きつゞいて、衰

8) 時事新報
 9) 申報
 10) 時事新報
 11) 時事新報、參看
 12) 時事新報、參看
 13) 申報

退の阪を下つてゐる。桐油の輸出も、減少の傾向に在る。アメリカに於ける支那桐油の販路は、フロリダ州の生産品の爲に抵制せられつゝある。その原因は、支那製品の不精と品質の不一致とに在る。¹⁴⁾

茶の生産は、その産地の秩序不安のために、本年度は著しい減少を見た。その輸出の不振なるは生絲市面の沉寂なると同様である。¹⁵⁾ ロシアはもと支那茶の大顧客であつたが、今年には日本と購買契約を結んだ。大體本年度に富士商社及び静岡貿易會社等は、共に四百二十萬磅を輸出したが、昨年の三百三十二萬二千三百八十五磅に比して、八十八萬八千磅の増加である。この外九州嬉野の茶は、約十萬磅の貿易に成功せんとしてゐる。¹⁶⁾ 支那茶の輸出が打撃をうけるであらう事は、之を疑ひ得ない。

農業生産の衰退は、先づ耕地の減少にその因をもつ。民國二年より七年に至る耕地の減少は、既に十分の七に達する。¹⁷⁾ 第二因は租税の加重である。米の運輸は財政的掠奪をうけ、その負擔は非常に重い。従つて、米

の配給は敏活を缺く。内地の産業區に於ける米價は極めて低廉ではあるが(江西省の如きは、昨年の米價は一石六元である)。然し消費地に在つては、非常に高價である。(上海の如きは、一石二十二元である)。最近の上海日日新聞は『恐怖下の中國』なる一論説を掲げて言ふ。江西の農民は、一石の米を村から城市に運んで、それを十二元に賣る。然し、農民は只二元をしか獲ることが出来ないのであつて、その餘の十元は、悉く租税徴收機關の手に歸して了ふ。この故に、今年には昨年の大兎作のあとを承けて、洋米の輸入は一億元の多きに達したと。(上海のみに就てみるも、本年一月から七月迄の輸入洋米は、銀八千三百餘萬元に達する。¹⁸⁾ 北部の麥粉は、民國十一年以後早くも内地の需要に應ずることは出来なくなつた。上海に輸入せらるゝ量は、毎年平均約四・五十萬袋である。十三年以後は、日米兩國の麵粉が大量に輸入せられてゐるが、然し麵價は一向に低下しない。¹⁹⁾

二

右に述べた生産の衰落並に商業の凋退は、その重大

14) 參看參看
 15) 條、消餘於
 16) 載業社字會
 17) 略絲聞數合
 18) 報於新公
 19) 申於世業
 のに於然
 日新報市
 四月業報
 六月工報
 報載部
 告申務寧
 報日新江
 館日事內
 領月十日
 米日三鈞
 駐六日三
 八葉月八

原因の一つを、當然に内戦に求むることが出来る。然し、吾々の注意しなければならぬ事は、内戦の原因は窮極に於て又、生産の衰微に在る、と云ふことである。直截に言へば、生産の凋落は、内戦の決定的原因ではあるが、しかも内戦は、生産に對して之を衰退せしむる反作用を持つ。

戦争は戦争を根底から消滅せしむることは出来ぬ。然し乍ら、今回の内戦の終焉以後に、中國は、従前の平和期に比してや、長い平和の時期を享有しうるであらう。而して此の平和期に於て、中國經濟は復興するであらう、と信ずる。復興する經濟は、然し乍ら、只金融商業資本の發達に過ぎぬ。工業はただ、外國が許容する範圍に於て、また商業の發達が刺戟する限度内に於て、發達するに過ぎぬであらう。此らの諸點に關して略説を試みよう。

今次の内戦は、金融資本並に財政徴收によつて蓄積せられた貨幣資本を用ひて、組織せられたのである。この資本は、歐戰の軍事技術を組織するに各參戰國が

嘗つて用ひた所の資本とその性質を同じくする。それ故に、今回の内戦に用ひられた軍事技術は、歐戰のそれと殆んど相等しい。軍事技術の高度化の故に、使用兵の數量も大となり、また築城技術も強くなつた。一戰線の軍隊は十師から成り、また一路の戦壕は長さ幾百里に及んでゐる。且つ主力軍を以つて戰の基本となすことは、民國以來の如何なる内戦に於ても、未だかつて存在しなかつた事である。かくの如き戦争の構へをなすには、從來の各内戦が必要としたよりも遙かに大なる費用と長い時間とを要する。もし今回の内戦が最短期間内に終結するとするも、第二次の大規模戦争が必ず同様の結構に於て、爆發し來るであらう。然し乍ら、今回の戦争が終末をつけて第二次内戦の開始する、迄には、必ず比較的長い時間が経過するであらう、と吾々は推測するのである。

内戦が未だ何らの結末をも見ない今日、各産米省區は既に豊收を傳へてゐる。最近の『時事新報』に言ふ。本年各産米區省の收穫は、極めて良好である。大體に於て

湖南江西兩省の米收は十二分である。浦東の米産は、往年に比して十分の四の増收である。また安徽と南京の交界地方に於ける杣米生産地域も亦、豐年を告げてゐる。要するに、目前の情勢に就て論ずれば、一ヶ月以内に大風や長雨等の天災の襲來しない限り、本年の收穫は、帝に十二分たるのみならず、二十四分である。

農産物の豊收は、之を地主側に立つて看れば、地代の増加を結果する。消費者から看れば、米價の低落である。外國資本家の立場に在つては、豊收は中國農村の購買力の恢復とそれに伴ふ對支貿易の再繁榮を豫測する標識となる、最近日本通信社は最後の點に關しての論説を上海日字報に發表した。彼らが待望してゐた所のもは、只戰爭の終焉、土匪の清掃並に交通の恢復のみである。彼らの輸出減退は、將に支那農村の購買力恢復によつて、補はるゝであらう。

かくて、經濟復興を第一に特色付ける所のものは、外國の對支輸出貿易の増進と云ふことである。——對支輸出貿易の増進は、政府に對しては、關稅收入の増加を招來する。國産品と外國品の交流は、舊勢を恢復

支那經濟の衰退とその復興問題

し或はそれ以上に増進するであらう。従つてまた商業資本も恢復或は増進するであらう。大都市に集存せる銀は、此の故に内地に流れ込み、銀價はその低落に一縷の希望を見出すに至るであらう。かくて又貸出預金等の銀行業務も、恢復或は増進する。要言すれば、金融商業資本の發達が、經濟復興の第一特色である。

外國の在支工業も亦、頽勢を挽回し、更にその勢力を伸長せしむる。日本の在支棉織業は、その紡錘を増加するであらう。支那の棉織業は、外國原棉の輸入増加と云ふ條件の下に、僅かの發達をなし得るであらう。その他の工業も亦、頽勢を挽回する可能性がある。此が第二の特色であるが、然しこれは從來の趨勢の繼續である。

農産物の豊收は、決して農業生産力の増進に基因するものではない。商業資本の特殊的な發達並に租稅の輕減不能と云ふ環境の下に在つては、更にまた工業原料として外國品を使用すると云ふ如き條件の下に於ては、農民は只依然として破産の一路を辿るのみであら

う。これが經濟復興第三の特色である。

以上述べた諸事情から看れば、中國經濟の復興は、決して従來の社會經濟關係を改變することは出来ぬ。もしかくの如き趨勢をして、それが赴くまゝに放任するとすれば、長期（比較的）の平和の中に、平和を破壊する第二次の大規模内戦が醗酵せらるゝであらう。歴史の循環は、そぞろに、吾等の憂心をそゝる。

三

もし果して、今後の經濟が前述の如き特色の下に復興するとすれば、次の二つの事項が、吾々の豫斷に値する。即ち第一は勞働運動の擡頭であり、第二は農村騒動の生起である。

三年前の國民革命高張時期（一九二五年—一九二七年）に於ては、勞働運動は攻勢に在つた。然るに、一九二七年から一九二九年には、勞働運動は消沈し始めた。最近の二ヶ年には、資本の攻勢が成立したのであつて勞資の紛糾事件のうち大部分は、資本主による解雇から發生したものである。同時に勞働者の政治意識も、

既に沈寂の境に陥り、資本の攻勢に對抗するための防禦戰としての經濟闘争以外には、政治運動は殆んど見られない。革命の終末以後に於ける經濟の衰微と内戦の勃發とは、勞働民衆の政治意識を加速度的に沈寂せしめたからである。

然し乍ら、經濟が一度び復興の階段に入れば、勞働運動は、工業のやゝ活氣を呈するに伴れて再起する。各國の社會運動史は、勞働運動の擡頭が工業の振興發達と正比例するを示してゐる。今後の中國も、此の例に漏れないであらう。

鄉村に在つては、農業は既に商業金融資本の發達の犠牲に供せられてゐるが、農業の困難の加重するにつれて、農村騒動は必ず生起する。然し乍ら、經濟復興期に於ける農村騒動は、紛ふ方もなく、現下のそれは質を異にする。昨年 of 普遍的饑荒は、失業農民を驅つて、游民無産者と共に暴動を起さしむるに至つた。然し一度び豊年となれば、かゝる暴動は勿ち消滅する。農民は、永久に村を離れて軍に従ふことは出来ぬので

あつて彼らは、播種收穫の時期には歸村しなければならぬ。ある一二の區域で農民が土地に對する彼らの欲求を満すことが出来れば、彼らは、地主に對する攻勢から轉じて、耕地保有の守勢にうつる。かくの如き情勢の下に於ては、現下の農村騒動もやがて消滅するであらう。而して此に代つて興るものは、農民の地主に對する經濟鬭争である。もし地主の反攻が強烈であれば、かゝる經濟運動は政治運動に轉化するであらう。

都市農村に於ける社會運動は、既述の政治的循環をして、愈々的確ならしむる。よし吾々をして太平を粉飾せしめずとも、如上の豫測は決して過誤ではないであらう。

社會運動の再起と共に、社會思想も亦發達する。軍警の權力は、斷じてかくの如き趨勢を杜絶することは出来ぬ。正確なる思想と正確なる政治方針のみが、獨りよく青年知識分子を領導して、中國の前途に寄與せしむることが出来る。

四

支那經濟の衰退とその復興問題

政治循環は、その本質上、人力を用ひて之を打破することが出来る。金融商業資本が特殊な發達をなして、農村が衰敗し、工業の振はざる現勢を打倒せんとする努力のうち、反帝國主義運動並に金融資本の國家統制こそ、最も重要な勞作である。吾々は、政府と國民が協力して、此の努力に向はんことを念願とする。次に二つの問題を提起しよう。

第一は、今日の國家收入は、關稅を以つて第一項目となしてゐる。然るに、何故地租は輕減せられずして反つて加重してゐるか、と云ふ問題である。

中央政府の收入は、關稅を以つて第一となしてゐる。その次は各種の營業稅である。¹⁾ 各省の收入も亦、釐金或は營業稅を第一となす。廣東の如きは、地租は第三位に列する。かくて政府の財源は、大體農村から都市に移つたのである。又現に移りつゝもある。然るに、地租は此のために輕減したとは決して言へない。例へば紹興に於ける本年上半年の徵稅に於ては、附稅は正稅よりも大であり、附稅の抵補金も亦正稅よりはる大で

1) 財政部、十八年度財政報告、參看

支那經濟の衰退とその復興問題

ある²⁾ 即ち次の如し。

	附 稅	抵補金附稅
每正稅一兩折征 (單位元)	一・五〇	每石正稅折徵 三・〇〇
附稅—省 稅	〇・三〇	附稅—省 稅 〇・三〇
特 捐	〇・四四	特 捐 〇・五〇
備荒捐	〇・三〇	一成教 育附稅 〇・三〇
自治捐	〇・〇八	一成建 設附稅 〇・三〇
塘開捐	〇・〇七	特 捐 一・〇〇
一成教 育附稅	〇・一五	徵收費 〇・一二二五
一成建 設附稅	〇・一五	治 費 〇・一〇
建設特捐	一・〇〇	計 五六二一五
徵收費	〇・一六二	
治蟲經費	〇・一〇	
合 計	四・二五二	

また奉賢十九年度の田賦は征畝捐の名目を帯びてゐる。³⁾ 左の如し。

警 察	公 安	建 設	教 育	黨 費
〇・〇八五	〇・〇五	〇・〇三	〇・〇八	〇・〇二五

自 治	〇・〇二
積 穀	〇・〇三五
農 場	〇・〇一五
預 測	〇・〇二

かくの如く、國家が商稅を以つて主要收入となしつゝも、而も田稅の少しも輕減しない基因は、中國社會の結構自體に存在する。中國は、商業資本の獨特に發達した農業國である。而して商業資本は、農民の生産から蓄積せらるゝ。それ故に、商稅の加重は農民の負擔に轉嫁せらるゝ。紛ふ方もなく、商稅は農民にたいする間接的負擔であり、地租は直接的負擔である。商稅が加重しつゝも、而も何故に田稅が輕減しないかはかくて依然として一個の問題を形成する。この問題の解決せられざる限り、農業生産力は決して發達せず、農民の破産は救濟し得られない。

第二に提示する問題は、國稅收入は、支那に於ける最大の資本蓄積である。然るに何故に、國營事業が發達しないか、と云ふ事である。民國十八年の國家收入は概略次の如くである。⁴⁾ (單位元)

2) 六月三十日, 申報
 3) 七月二十三日, 時事新報
 4) 一月六日, 時事新報, 並に財政部報告による

關稅	一八二、〇〇〇、〇〇〇
鹽稅	三六、一〇〇、〇〇〇
釐金	六、〇〇〇、〇〇〇
江蘇	三、二〇〇、〇〇〇
湖北	六、〇〇〇、〇〇〇
浙江	九、七〇〇、〇〇〇
其他	四七、〇〇〇、〇〇〇
煙酒稅	一三、〇〇〇、〇〇〇
印花稅	六、八〇〇、〇〇〇
常關稅	三、〇〇〇、〇〇〇
郵包稅等	三、〇〇〇、〇〇〇
約計	三一、二、八〇〇、〇〇〇

毎年三億元以上の資本が蓄積せられてゐる。もし此の大部分が、事業のために用ひらるゝならば、必ずよく財政負擔は農民から國家産業の上に移るであらう。而して軍隊と官吏の組織配分は、必ず相當の限度にまで減ぜられねばならぬ。官營事業は往々にして官富業に墮する。況んや財政收入の未だ用ひて官營事業に到らざるをや、である。

意ふにまかせて提出した幾個かの統計は、已に中國が現に持つてゐる幾つかの重大問題は、凡て之を解決

支那經濟の衰退とその復興問題

しうる所のものである、ことを指示してゐる。然るにもし此らの諸問題が解決せられないならば、前述の趨勢は、之が挽回の望を失ふであらう。假に、農業が地租改正後に發達するとすれば、また國營事業が反帝國主義運動のうちに發育するとすれば、支那經濟の復興は支那に於ける農業並に工業生産を破壊する如き趨勢を馴致しないであらう。—昭和、五、一〇、一六譯—

附記。拙稿は昨年十月の筆にかゝる。事情のためをくれていま茲に掲載する。 —大上—